

多くの教会や家庭における何ヶ月もの準備を経て、ボリビアのコチャバンバで、テゼの主催による中南米の青年大会が2007年10月10日から5日間開かれた。ボリビア各地から、また中南米のすべての国から、さらにヨーロッパの国々からも、合わせて7000人ほどの青年たちが集まった。このテゼからの手紙2008年:「コチャバンバからの手紙」は、まず2007年の年末にジュネーブで開催されたヨーロッパ大会で公表された。

テゼからの手紙 2008年

コチャバンバからの手紙

和解、それは炎

ボリビアで、中南米のすべての国々から集まった青年たちと一緒に、わたしたちはこう問うたのです。「今日、どんな希望の道を切り開くことができるのだろう」と。

社会的にも民族的にも非常に多様な人々から構成されるボリビアの人々は、対立を後ろに追いやり、より豊かな正義と平和へ前進しようと模索しています。

地上の多くの場所で、歴史のいまだに癒されることのない傷によって、新しい緊張が生じています。不正義に直面して、無気力がますます人々の心を支配しようとするときに、どのように傷が癒されるのでしょうか。

コチャバンバに集まった青年たちは、多様性がわたしたちを不可避に分裂や対立に導くものではなく、その内側には、互いの価値を高め、互いに喜びをもたらす豊かさが抱かれていることを証してくれました。(1)

自分の生活のすべてをかけて、和解の心で葛藤するようという福音の呼びかけを生きる勇気あるキリスト信者に、わたしたちはボリビアで出会いました。

和解の源泉

わたしたちは、和解の心で葛藤するために必要な力を、生きておられる神との個人的な^{コミュニケーション}交わりから引き寄せます。この内側のいのちの営みなくしては、決断したことを十分に行動に移すことはできません。わたしたちの喜びは神の内にあり、神の内自分の人生を十分に生き抜く希望があるのです。

神ご自身が、わたしたちのために最初の一步を踏み出されたのではなかったのですか。イエスをこの世にお送りになり、人間一人一人との真の出会いのために、神はご自身を差し出されました。わたしたちの理解をはるかに超えて、神がとても近いお方になられたのです。

愛のゆえに、神はわたしたちの存在をご自分と分かち合われることを望まれ、神は一人の人間とられました。さらに、十字架にご自分のいのちを差し出すことによって、イエスは人間のもっとも低いところを選択されました。(2) わたしたちと神を引き離すものすべてを、イエスはご自分で引き受け、わたしたちの存在と人間性すべてを担われたのです。(3) そしてご自分のいのちをわたしたちに伝え分かち合われました。(4) このようにして、創造されたすべてのものの変容がすでに始まっているのです。(5)

神とのこの交流は、祈りを通してわたしたちの中で実現されます。聖霊によって、神がわたしたちの中に宿られるのです。みことばによって、また ^{sacrament}秘跡によって、キリストはご自身をわたしたちに差し出されます。そしてわたしたちは、すべてを神にゆだねるのです。(6)

すべての人をつつみこむ友情を広げていく

和解の炎を^{ふさ}塞ぐことはできません。身近なところで、また遠く離れたところで、わたしたちが平和を創り出す者になるよう招かれるその道に、和解の炎は光を照らすのです。(7)

神がわたしたちのために何をしてくださっているのか気づくなら、そのことによって、わたしたち同士の関係も変容されます。他者との真正な^{コミュニケーション}交わり、いのちを与え、受けとる交流が可能になるのです。

他者に向かって最初の一步を踏み出すようにと、福音はわたしたちを招きます。たとえ前もって彼らがそれに応えてくれるという保証がなくとも。

時として、特に関係が壊れてしまっている場合に、和解は達成できないことのように思われることがあります。そのようなとき、和解への切望はすでにその始まりであるということに気づくのです。キリストはどうにもならないと思われることを自ら引き受けてくださいます。そしてわたしたちは、癒しが必要なすべてのものを、キリストにゆだねることができるのです。それは、どんなに小さい一歩であっても、緊張を和らげるために歩み出す機会を捉えるよう、わたしたちを整えてくれます。

和解は、社会をその深みから変容することができます。復活されたキリストの聖霊は、この地上の面^{おもて}を再び新たにします。このご復活の躍動^{ダイナミズム}によって、わたしたちは前へと突き動かされます！直面する問題の複雑さのために落胆に陥ることのないようにしましょう。ほとんど何もなくとも始めることができることを忘れてはならないのです。(8)

教会の交わり^{コミュニオン}はわたしたちを支えます。それはすべての人に向けられた友情の場所です。(9)「わたしたちにとって教会とは子供に耳を傾ける母親のようなものです。母親は迎え入れ、母親は慰めます」(10) このラテン・アメリカの若者の言葉は、次のような課題をわたしたちに投げかけます。わたしたちは、神の深い憐れみが自分を通して輝きだされる道を生きようとしているでしょうか。

対立する状況の中で、わたしたちは他者に耳を傾けようとしているでしょうか。耳を傾けることによって、実に多くの分裂の痛みが軽減されます。(11) 他者の立場に身を置くことに心を砕こうとするのです。

わたしたちは、資源のより公正な分かち合いを確かにする道を探しているでしょうか。さらなる単純素朴さ、困窮した人々との連帯、そして被造物への一層の配慮に向けて、わたしたちの生活様式をあえて見直そうではありませんか。

わたしたちは、より貧しい人々に近づこうとしているでしょうか。彼らと分かち合うことにより、いのちの交流が生まれます。彼らによってわたしたちは心の広さに導かれ、わたしたち自身の殻から抜け出します。さらに、彼らの貧しさによって、わたしたちは自らの弱さを受け入れるよう助けられます。このような関わり合いにより、わたしたちは人間一人一人の尊厳を大切にしてください。

わたしたちは、あえて赦すところまで進もうとしているでしょうか。絶えることのない屈辱の鎖を断ち切る方法が他にあるでしょうか。(12) それは辛い過去を忘れたり、不正義な今日^{こんにち}の状況に目を閉じることはありません。福音は、赦すことにより傷ついた記憶を克服するように、そして見返りに何かを期待することすら乗り越えるようにと招いています。このようにして、わたしたちは神の子としての自由を見いだすのです。

そう、わたしたちは和解の心で葛藤することを望むのです。交わり^{コミュニオン}の心熱い探求者となるために。すべての人々をつつみこむ友情を広げてゆくために。

(1) 地方の青年たちが伝統的な装いでコチャバンバに到着したとき、それはまさに色彩の祝祭でした！ ボリビアの全地方の青年たちが、平地と山間部から、都市と村々から一堂に集まる様子、それは何という喜びでしょう。青年たちが、その生活の仕方によって、「和解の微気候」の発生に貢献できることをこの大会は示してくれました。福音が真にボリビアにおける和解の推進力になるために、多くのキリスト者が、信仰を宣言しながら、互いの伝統的、文化的、宗教的背景を今まで以上に大切にしようとしています。

(2) 聖パウロにとっては、キリストによって成就した和解は、天地の創造のすべてに関わることでした。イエスが来られたのは「万物、すなわち、地にあるもの、天にあるものを、ことごとく和解させる」ためだったのです。(コロサイ1:20) そのため「イエスは神と等しい者であることに固執しようと思わず、かえって自分を無にして、僕の身分^{しもべ}になり、人間と同じ者になられました。」(フィリピ2:5-11)

(3) みことばの黙想からもたらされた靈感による詩的な表現で、正教会のクリスマスの典礼ではこのように歌われます。「創造者は、ご自分の手で創られた人間が迷うのをご覧になられて、天空を折り曲げ、降^{くだ}ってこられた。聖く無垢な処女のもとにお生まれになり、ご自分のからだの内に人類すべてを抱かれた。」

(4) 2世紀のキリスト者、リヨンのエレナイオスはさらにこのように言い切ります。「その無限の愛のゆえに、キリストはわたしたちになりました。それはわたしたちを完全にキリストにするためなのです。」

(5) 聖霊は、創造の中心にある魂のようです。「この世界の美しさは、聖霊の活気溢れる力によって保たれている…。この聖霊はすべてのところに浸透し、天と地に存在するものすべてを保ち、鼓舞し、生き返らせている。」(ジャン・カルヴァン Institutes of the Christian Religion I XIII, 4)

(6) 神との交わり^{コミュニオン}を、いつも感情によって体験できるとは限りません。わたしたちの内の聖霊の現存は、もっと深いものです。何の感情が伴わなくても、たとえば単純な姿勢をとることによって ひざまずいたり両手をひろげることなどによって 祈ることができます。そしてそのときすでに神はわたしたちを訪れてくださっているのです。

(7) キリストはご自分に引き寄せられた者を世に遣わされます。マルコ1:17 参照。

(8) ルカ10:1-16 参照。

(9) 若いボリビア人の女性、ロクサーナは、近年ボリビアで問題となっている大きな社会的緊張を和らげるために、教会が果たそうとしてきた役割を次のように表現しました。「何が人々の抗議、憤りや不安感を招くのでしょうか。愛の欠如でしょうか。自分たちの声は聞き入れられないと知る人々の無力感でしょうか。

人々と苦悩を分かち合いたいと思うとき、より一層神からの希望に近づく必要を感じます。だからこそ、絶え間ない祈りを求めて教会のドアは開かれたのです。様々な近隣地域の人々を説明集会へ招くために教会のベルが鳴り響きました。若者は一致、連帯、そして友情の力強さを見いだしました。わたしたち若者が教会の生きた血です。わたしたちの参加と活力が教会にはどうしても必要なのです。」

(10) 「神は言われる。『女が自分の乳飲み子を忘れるであろうか。母親が自分の産んだ子を憐れまないであろうか。たとえ、女たちが忘れようともわたしがあなたを忘れることは決してない。』」(イザヤ49:15)

(11) 個人的な関係の場合と同じように、社会全体の中でも、そして人々や大陸間の国際関係においてさえ、互いに耳を傾け合うことが必要です。

(12) コチャバンパでの大会で驚いたことの一つが、対立関係にある隣国のチリから多くの青年が参加したことでした。大会最後の日、チリ人の若者たちはボリビアの若者たちに和解の徴をその場ですぐに表すことを願いました。そして公開書簡を通して、過去そして現在のすべての対立について赦しを求めたのです。

キリスト者が和解し合うことへの招き

ブラザー・ロジェが、テゼ共同体を始めるために1940年にジュネーブを去ったとき、彼はひとつの直観に突き動かされていました。それは、キリスト者が人類の平和のパン種になるためには、キリスト者同士の和解を一時でも遅らせてはならない、ということでした。何年も後に、この心の旅について彼はこう記しています。

わたしのキリスト者としての生き方は、祖母のありようを近くで体験したことによって、彼女と同じように、自分の元々の信仰とカトリックの信仰の神秘とを自分の内で和解させることによって成り立ちました。

ブラザー・ロジェによって開かれたこの道には気配りが求められます。努力が必要です。わたしたちの試みは未完なのです。

キリストの中で、わたしたちは互いに結ばれています。キリスト者が分裂しているとき、福音のことは耳に届きません。

現代社会からの問いかけ、特に世俗化やどのように互いが理解し合えるかという問いかけに、すべてのキリスト者の群れの中におられる聖霊の賜物をひとつにせずに応えられるでしょうか。わたしたちが分裂しているとき、いったいどのようにキリストの平和をすべての人に伝え分かち合えるのでしょうか。

キリスト者が互いに反目しあうことに、ときには同じ教派の中で反目しあうことに大きなエネルギーを費やすことはもう止めようではありませんか。その代わりに、わたしたちは神の現存の中でひとつに集まる機会をもっと増やそうではありませんか。みことばを共に聴くことのうちに、沈黙と賛美のうちにひとつに集まるのです。

毎月、あるいは3ヶ月毎に、同じ町や村や地域に住む人々を招いて、「和解の祈りの集い」を開くことができるのではないのでしょうか。(1)

このような祈りのときを準備するために、青年たちは出かけてゆき、他の人たちを訪ねるのです。他の教会や集会、他の運動やグループ、あるいは信仰の道を探し求めている青年たちのところにさえ訪ねてゆくことができます。

そうすることによって、可能なことを一緒にしようという願いが大きく育ってゆきます。わたしたちを分裂させているものより、わたしたちをひとつにさせているものの方がより大切なのです。自らの生き方によって、この^{リアリティ}真実が輝きださせる必要があるのです。

(1) 毎月テゼのサイト(www.taize.fr "Prayer and Song")では、このような祈りの集いの骨子と、祈りの後での分かち合いで用いることのできる「みことばの黙想のテーマ」を提案しています。もちろんこれらは、それぞれの教会や共同体で行われている礼拝や典礼に優先されるものではありません。

キリスト者の異なる伝統にある賜物を互いに学びあうことはすでに始まっています。テゼでは、共に祈ることや個人的な出合いによって、他者への尊敬が深まり、このような交流が自然に生じています。

信仰の神秘について、キリスト教のさまざまな伝統は、それぞれ豊かな理解を発展させました。

東方のキリスト者は、キリストのご復活を常に強調し、それによって世界はすでに変容させられたものであると理解してきました。この理解のゆえに、長い年月の苦悩を彼らは耐えてきたのではなかったでしょうか。東方の教会は、教父たちの教えを忠実に守ってきました。東方から西方にもたらされた修道生活の伝統は、すべての教会に観想生活の息吹を注ぎ込んでくれました。西方のキリスト者はこの豊かな伝統にもっと心を開くことができるかもしれません。

宗教改革によって生じた教会に属するキリスト者は、神はご自分の愛を無償かつ無条件に与えてくださるという福音の^{リアリティ}真実を強く強調してきました。みことばを通して、それに耳を傾け、それを生活に生かす人に、神は来てくださるという信仰の神秘です。単純素朴に信頼する信仰は、神の子どもたちに自由をもたらし、共に歌うことによって、神のみことばがわたしたち

を貫くのです。このような理解は、すべてのキリスト者にとってきわめて重要なのではないのでしょうか。

カトリック教会は、キリストによって結ばれた^{コミュニオン}交わりの普遍性を、歴史を貫いて、可視的なものとして守ってきました。そこでは、特定の地域の教会と普遍的な教会の均衡が常に模索されていました。この両者は不可分なものなのです。あらゆる段階の人々を^{コミュニオン}交わりへと招く司牧は、信仰における合意の維持を助けてきました。洗礼を受けたすべての人がこの司牧に関しての理解をさらに深めてゆくことはできないのでしょうか。

すべての教派を超えて、それぞれの大陸に与えられている賜物を学びあうことは緊急の課題です。たとえば、ヨーロッパのキリスト者は他の大陸の諸教会から多くのことを受け取ることができます。これらの諸教会はヨーロッパから今まで受け取ったすべてのことのお返しに、今日、福音の新鮮さを伝え分かち合うことができます。キリストの証人と殉教者たちは、わたしたちをひとつの^{コミュニオン}交わりへと招きます。彼らは、すべてのキリスト者の目に見える一致を求めるための希望と決意を育んでくれるのです。

キリストに従うことを願う人々への手紙

福音書の中で、イエスはこう呼びかけています。「わたしに従いなさい。」この呼びかけに対し、全生涯を通して応えることができるでしょうか。

わたしたちすべての中に、未来の幸福へのあこがれがあります。しかしあまりにも多くの限界に制約され、時に失望という罠に陥ってしまうように思えることがあります。

にもかかわらず、神は存在しているのです。「神の国は近づいた！」(マルコ 1:15) わたしたちが自分の置かれている状況に向き合い、そのありのままの状況を土台に何かを創り出そうとすると、神の存在に気づくようになります。

だれも理想化された夢の中で身動きが取れなくなることを望んでいません。わたしたちはありのままの自分、自分どういう者であるか、どういう者でないかを受け入れる必要があります。

幸福な未来を探し求めるとき、わたしたちは選択する決断へと招かれます。

家庭生活を続けながら、社会の中で、他者への献身という形で、キリストに従うという勇氣ある選択をする人もいれば、独身という道を選ぶことによってキリストに仕えようとする人もいます。

自分の一生のために何らかの選択をしようとしている人をわたしは心から励ましたと思います。

決断には迷いも伴うでしょう。しかしより掘り下げて考えるうちに、自分を完全に明け渡す喜びを見いだすでしょう。不安ではなく、聖霊に自分をゆだねる人は、何とさいわいなことでしょう。

神があなたに個人的に呼びかけ、ご自分を愛するのを待っておられる、とは信じがたいかもしれませんが。しかしあなたの人生は神にとって重要なのです。

あなたを呼ばれるとき、神があなたに何をすべきかを指図することはありません。神の呼びかけは何よりもまず、個人的な出会いというかたちで起こります。あなたを迎え入れるキリストに答えてください。そうすれば取るべき道が見いだせるでしょう。

神はあなたを自由へと招いておられます。神はあなたを受け身の人間へと変えることはありません。聖霊によって、神はあなたの中に宿っておられます。しかしあなたに取って代わることはありません。それどころか、神は、思いも寄らなかった力を呼び覚ましてくれるのです。

まだ若いうちは、選択を恐れ、多くの可能性を残すために決断を避けたいという気持ちになるかもしれません。しかし岐路に立ったままで、どのようにして真の充実を見いだすことができるでしょうか。

あなたの内に、満たされないあこがれがあること、答えられない疑問があることを受け入れて下さい。澄み渡った心で、あなた自身をゆだねるのです。教会には、あなたに耳を傾けてくれる人々があります。耳を傾けてもらうことで、あなたは、どのようにして完全に自分を明け渡すことができるのか、徐々に見極めることができるようになるのです。

キリストに従おうとする道で、あなた独りではありません。^{コミュニオン}交わりの神秘、すなわち教会があなたに寄り添っています。この交わりにおいて、「はい」という答えは賛美へと変わります。

この賛美は、ためらいの中から、あるいは荒廃感の中からさえも生まれます。しかしそれはやがて喜びの泉となり、わたしたちの全生涯を通じて湧き出でるのです。